

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム 花の木		
所在地	岐阜県恵那市大井町2709-72 (電話) 0573-20-1023		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年12月3日	評価確定日	平成20年 1月10日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	7.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 450 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 1 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.8 歳	最低 78 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森川クリニック 恵那市立恵那病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路より少し入った静かな林の中にある広い敷地と自然豊かな環境に恵まれたホームである。玄関前には大きなシンボルツリーの花の木が2本植えてあり、母体法人は地域との共生を理念とし介護老人福祉施設、通所介護、訪問看護、ケアハウスなど多様な福祉サービスを総合的に提供しており、その一環としてグループホームも運営している。来年4月開設予定の1ユニットが増設中である。毎年、職員は運営目標をわかりやすい言葉に変えて事務所内に掲示し、ケアの質の向上に向けて取り組んでいる。家族会があり、陰の大きな協力者として地域に根付いた心強い応援体制が出来上がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での主な改善課題であったヒヤリハットの件を取り上げ、事故予防対策の役割分担をして責任を持ち、月に1回、職員間で事例を挙げ話し合っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	職員全員で取り組み、ケアの見直しに活用して質の向上につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議では利用者の日頃の生活を報告し、「災害時に地域の協力を得る方法や応援体制について」「花火大会について」など毎回テーマを決めて話し合いをし、サービスの質の向上に結びつけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族会があり、意見交換や要望などが出されて運営に反映されている。協力体制が出来上がっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域との交流も積極的に取り組み、日常生活に大きく活かして成果を得ている。また、家族会も組織され、円滑な協力関係も得られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「地域社会の中で個人の有する能力に 応じて穏やかな生活ができる様に支援する」 としている。毎年、事業目標を解りやすい言葉 に変えて事務所内に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で、理念と事業目標を確認し ながら話し合いの場(職員会議)をもうけて いる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域で行う「五平もちの会」「新年持ちつき 大会」などの行事や保育所の運動会にも地域 の一員として参加に努めている。自治会にも 加入して積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	自己評価は全員で取り組み、ケアの見直しに 役立てて評価の意義の理解に繋げている。外 部評価後、月に1回、法人内で話し合い、改善 課題であったヒヤリ・ハットは役割分担をし て学習会を行い、事故防止に努め取り組んで いる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者の生活の報告や防災、花火大会等テーマを決めて話し合いを行い、サービスの質の向上に結び付けている。運営推進会議には家族の会の代表者も参加して、ホームの運営に協力をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市と連携し、市主催の研修会や講演会に参加したり、市からの介護相談員の実習を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者家族に利用者の生活の様子や行事予定を「花の木たより」を作り報告している。また、年に4回、部屋担当者による一人ひとりの近況を家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が2ヶ月に1回開かれ、家族の意見や要望を聞いている。今までに苦情はなく、1泊旅行の要望があり、企画して実行出来き、喜ばれた。また花火大会にも家族会の協力を得ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、特にグループホームを希望する職員の配置には考慮し、異動は最小限として、極力避けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の教育計画は、新人、中堅、管理者と、対象を決め目標を挙げている。今年度は1泊研修で生活リハビリを取り上げて講師と共に、時間を有効に活用し、参加しやすい体制づくりに取り組んできた。また、法人内研修は全員が参加できるような職員体制にしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム2ヶ所とは、利用者も含め交流している。他のグループホームとの交流会を通じ、情報交換をしてサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者と、家族、及びケアマネジャーと一緒に見学をしてもらっている。また、行事の時に遊びに来てもらい、時をともに過ごすことで馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の料理作りやお菓子作り（お節句のカラスミ作りや冬の白菜お漬物つけ、干し柿作りなど）を利用者と職員が一緒に行っている。訪問時、居室前のベランダにたくさんの干し柿がつるされていた。利用者と同じ目線に立ち、教をを請いながら支え合っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に会いたい利用者は、月1回は必ず、家族の協力を得て外食等を行っている。落ち葉掃きなど。一人ひとりの思いを把握して支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議で利用者・家族の意見や要望を聞いた事を、ケアマネジャーとともに話し合い、利用者本位の介護計画を作成し、家族に了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	部屋担当者は受け持ちの利用者について、3ヶ月に1回のモニタリングや見直しをし、家族や本人の意向を聞き、介護計画を見直している。また、主治医のアドバイスも取り入れて計画の作成に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他のグループホームとの交流会や特別な外出支援を行っている。リンゴ狩りや通院時の移動介助を行っている。医療関係者と連携が出来ており、週ごとに交替で、協力医と訪問看護で心身の健康管理を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者・家族の選択により自由にできる。2週に1回は協力医の往診があり、1年に1回は耳鼻科の診察を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医と家族や利用者と、納得のいくまで話し合いをし、終末期に向けての方向性を出していく検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や入浴時のサービス提供時には利用者の尊厳を大切に言葉かけや接遇に配慮している。個人情報や記録は鍵のかかる事務所で保管して十分に注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	評価当日も日課はあるが朝9時頃起床し、朝食が終わったばかりの利用者もあり、ゆったりと時間が流れていた。昼食時も利用者のペースに合わせて、急がせることなく、声掛けをしながらの食事支援がされていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けに、利用者も共に加わりそれぞれ役割を担っている。職員も一緒に3テーブルにわかれて食事をとりながら、話題提供をして楽しい食事風景が見られた。個々の利用者の嗜好を取り入れて、季節感・行事食を大切にして献立作成をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3日の入浴日はあるが、毎日対応しないと精神的に不穏になる人やタイミングが合わないと入浴を拒否する人には利用者の意向に合わせて、時間をずらしたりして入浴支援をしている。入浴出来ない時は足浴を提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌声ボランティアによる歌や習字教室、パッチワーク作り、寺の住職による法話、近くの高校生による年3回の園芸ボランティアとの交流など生活歴を生かした楽しみ支援が行われている。また、クリスマス会の準備をしながら、利用者がオルガンを楽しんでいた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩、林やホームの近くに設置したベンチでの日向ぼっこ、おやつの買い物時に利用者が同行するなど希望にそって支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しないが、安全目的で夜間は鍵をかけている。徘徊のある人は、職員で連携して見守りをしている。利用者の圧迫感のない生活をささえている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署が来ての避難訓練や自主訓練、災害時のビデオ学習をしている。また、運営推進会議に地域の協力体制を議題に出し、地域の人々の協力が得られるようになってきている。備蓄用食材やポリタンクの水など非常用に保管している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に、年に4回、献立メニューを見てもらっている。職員の中に調理師がいて献立や栄養バランスに注意をしている。日々利用者の水分や摂取量を把握して記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹きぬけの高い天井、自動開閉の窓、ゆったりした居間、居間の一角に和室が50cmの床高であり、100歳の人が描いた7人地蔵の水墨画の掛け軸が人を癒し、居心地良い雰囲気であった。園芸ボランティアの高校生が作った鉢植えが配置良く置かれ、利用者の生きる力につながっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や掛け軸、自宅で愛用した机などが持ち込まれ、家族と利用者により、使い良い様に配置されていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。